鍛えの場・芽生えを培う場・やすらぎの場・広がりの場

白川町教育委員会だより　NO.１１　　令和６年２月１日

ひとなる

白川を愛し、たくましく心のあったかい子を育む美濃白川

鍛えの場・芽生えを培う場・やすらぎの場・広がりの場

１月７日（日）、「二十歳のつどい　～大志式～」が白川町町民会館グロリアルホールにて行われました。白川町では二十歳となる皆さんの新しい門出を祝う会として「二十歳のつどい　～大志式～」を行っております。

立志から大志へ　二十歳のつどい　～大志式～

町内の中学２年生は、「青雲のつどい ～立志式～」において、活動を共にする中で、将来の夢について語り合います。中学校を卒業後は、その時語り合ったそれぞれの夢をかなえるべく己の道を歩みだします。そして、二十歳となった今、生まれ育った白川町で再び集い、「打ち立てた志」が「大いなる志」へと成長したことを再び皆で共有することで、未来を担う社会人としての大きな一歩を踏み出してほしいという願いがこの大志式に込められています。

今回の式には、大いなる志を抱いた７０名が晴れやかな笑顔で参加し、中学校卒業以来会う仲間との再会の時間を楽しんでいました。成人宣言では、これまで育ててくれた保護者や地域の方への感謝をするとともに、一人の社会人として、明るい未来を拓くために貢献することを力強く宣言しました。また、式の最後には、保育園、小学校、中学校でお世話になった先生方が登場し、当時の思い出と共に、身も心も成長した教え子たちへ熱いエールとメッセージが送られました。

白川町では、これからも保育園及び学校教育において、体験を通し、身体をつくり、言葉を育て、「志の芽」を培います。

令和６年はどんな年に。

３学期が始まり、各小学校で書初め会が行われました。書初めとは、年に一度行われる日本の正月行事で、年の初めに文字や絵を描くことを言います。書初めを行うのには、一年の目標や抱負を決めるという意味があり、どの児童も、一文字一文字に願いを込めて丁寧に書き上げました。

大谷選手よりグローブが届きました。

町内の各小学校に、米大リーグ・ドジャースの大谷選手よりグローブが届きました。大谷選手のメッセージ「夢を与え勇気づけるためのシンボル」に心打たれました。早速、みんなでグローブ使用のルールを考え、休み時間にキャッチボール等で楽しんでいます。

冬の海山交流　宮古島の小学生をおもてなし

１月１２日から１４日まで沖縄県宮古島市立下地小学校の６年生１０名を白川町に招き、町内小学生と様々な交流活動を行いました。これは、夏に実施している『海山交流事業』の２回目の交流で、８月には白川町の子どもたちが宮古島へ行き１回目の交流をしています。

宮古島はサンゴ礁の島であり、美しい海はありますが、高い山や大きな川がありません。宮古島の子どもたちは、初めて見る大きな山や川に感動。今年は、白川町より少しだけ足をのばして、高山市内の観光にも出かけましたが、そこで見た自然の雪に、再び感動。氷点下の寒さに震えながらも「また、白川町に来たい」と声をかけてくれました。

今回の交流は２回目ということもあり、白川町の子どもたちは、自分から声をかけたり、活動の準備をしたりするなど積極的な姿が見られました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、海・山それぞれお互いの素晴らしさをたくさん発見するとともに絆を深めることができたようです。

高山市に近づくにつれて、一面雪景色に。宮古島の子どもたちは初めて見る自然の雪に大興奮。雪の感触を楽しみながら、大はしゃぎでした。

クオーレにて茶もみ体験やソーセージづくり、ダッチオーブン料理に取り組みました。共同作業を通して、自然と仲が深まり、笑顔がたくさんになりました。

グロリアルホールでは、パイプオルガンの演奏を楽しみました。初めて聴くパイプオルガンの音色に感動するとともに、音の出る仕組みに興味津々でした。最後に、エイサーを披露してくれました。

令和５年度　可茂地区学校図書館教育賞

可茂地区管内の小・中学校における学校図書館の整備、活用を促進し、学校図書館を活用した教育活動を充実させることによって、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の充実を図るとともに、豊かな人間性や思考力、判断力、表現力の育成を図るため、毎年、審査会が実施されています。

令和５年度は町内より３校が参加し、各校の特色ある図書館教育の実践を発表しました。

【小学校部門】最優秀賞：白川小学校
優秀賞：佐見小学校
【中学校部門】最優秀賞：黒川中学校

黒川中学校では学校図書館を「読書を通して豊かな人間形と主体性を育む場」としています。楽集館司書によるブックトーク、生徒による本の選定など、読書を心から楽しむ心が醸成されています。

白川小学校では図書館教育の目標を「進んで読書活動に親しみ、豊かな心や言葉をもつ子ども育成」としています。絵本の読み聞かせやビブリオトークなど、読書に興味をもち、楽しむ子が増えています。

鶯のさえずり（「ひとなる」編集日記）

「忖度」という言葉をよく聞くようになって随分と経ち、日常会話の中にも当たり前のように使われるようになりました。最近、保育園に通う５歳の息子とよくカルタをするのですが、これが実に難しい。本気を出してとりすぎてしまうと泣き出してしまうし、わざと見つけられないふりをすると怒り出してしまいます。息子の気持ちをおしはかり、ちょうどいい加減をなかなか見つけることができません。ただ、「勝ってうれしい」「負けて悔しい」という気持ちを十分に味わうとともに、「次はどうしたらいいのか」を考え、次なる一歩を踏み出せるようにするところまでを大事にしながら、日々の遊びの中で子どもの成長を見守る毎日です。　　実は本気をだしても勝てなくなっているK鶯